

東京都 インフルエンザ情報

東京都健康安全研究センター

今号(第18号)のトピックス

- ・2014-15年シーズン(2014年36週/9月~2015年20週/5月)のまとめ
患者報告数の週別推移、年齢階級別患者報告数、入院患者サーベイランス
ウイルス検出状況・ウイルスの遺伝子系統樹解析

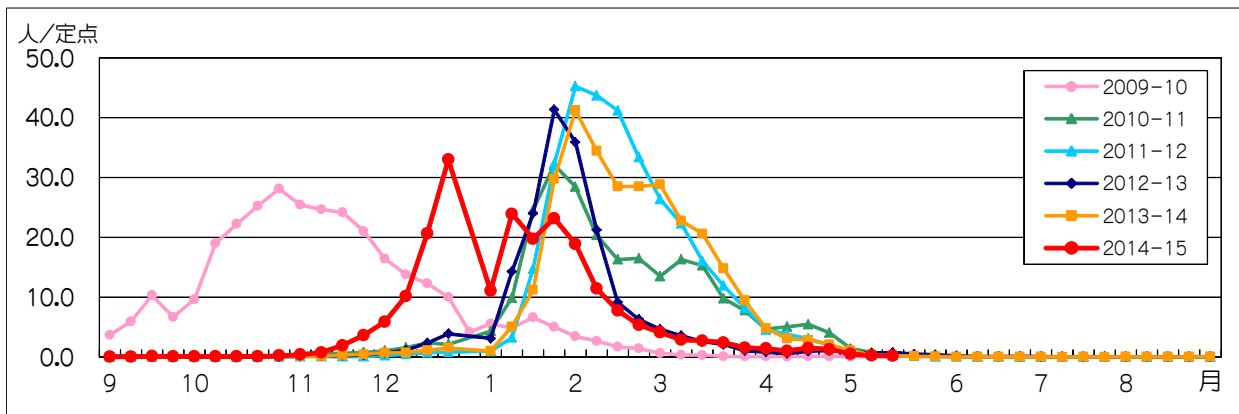


図1. インフルエンザ定点*当たり患者報告数の推移 (東京都)

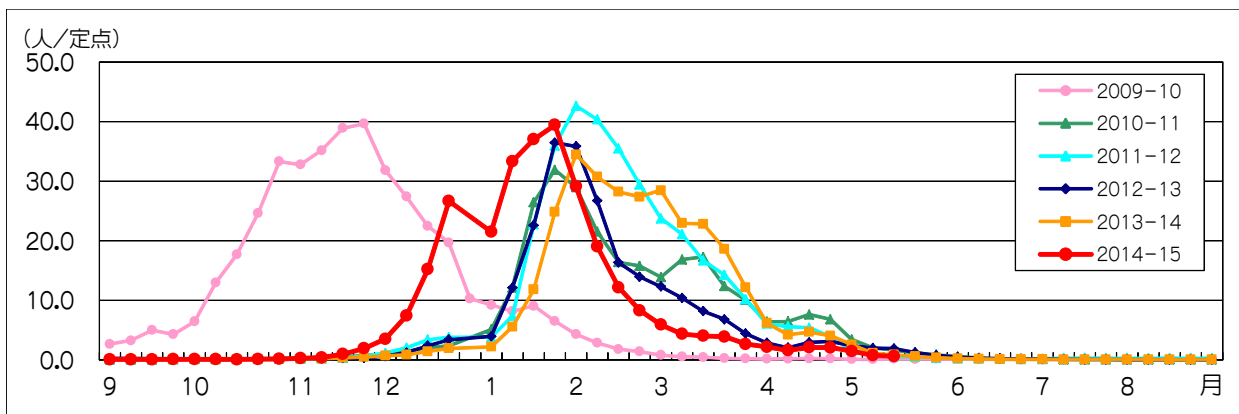


図2. インフルエンザ定点当たり患者報告数の推移 (全国)

2014-15年シーズンのまとめ

東京都における2014-15年シーズン(以下、今シーズン)の流行は、2014年47週(11月17日~23日)に1.92人/定点と流行開始の指標となる患者報告数1.0人/定点を超え、52週(12月22日~28日)に32.96人/定点とピークを示し、年頭の急減はあったものの、多少の増減を示しながら順調に減少しました(図1)。

全国では、4週に39.42人/定点とピークを示し、その後順調に減少しました(図2)。

今シーズンのインフルエンザ定点当たり患者報告数の累計は過去10年で6位(217.77人/定点)と、中規模の流行となりました。

*:インフルエンザ定点

419か所(全国約5,000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」として指定しています。

**：基幹定点

25か所(全国約500か所)の医療機関を「基幹定点」として指定しています。

(1) 患者報告の状況

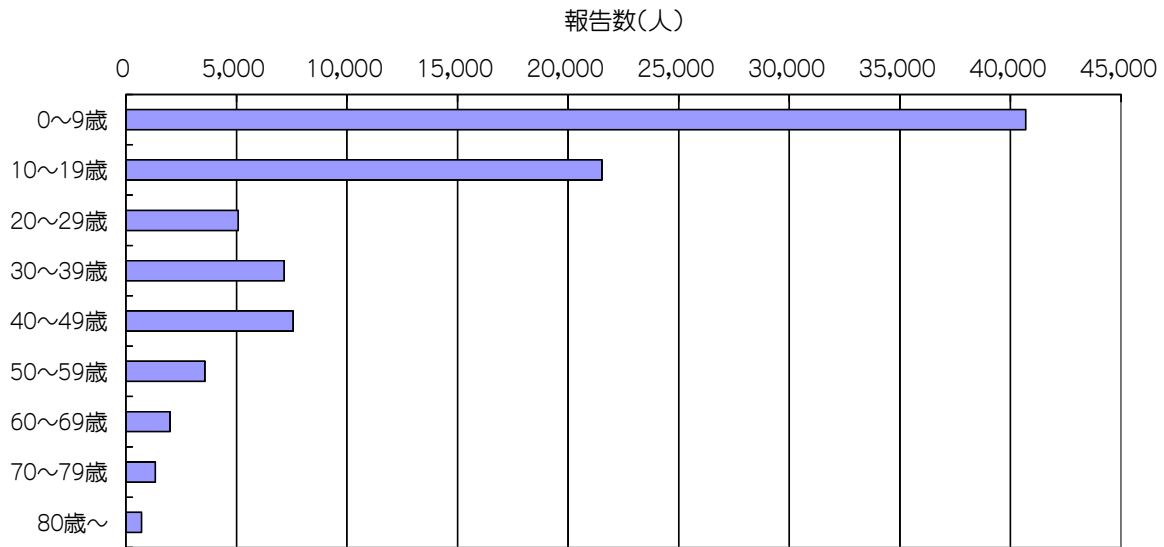


図3. 年齢階級別インフルエンザ患者報告数 (東京：2014年36週-2015年20週合計)

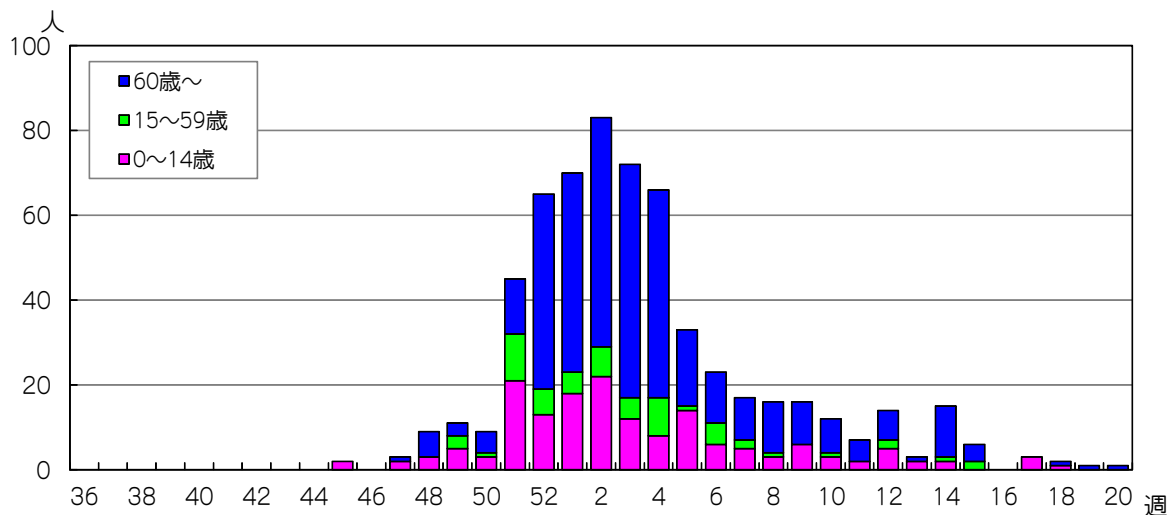


図4. 入院患者サーベイランス報告者数の推移

患者報告数を年齢階級別にまとめると図3のようになります。インフルエンザ定点419か所の内、小児科が264か所を占めるため、0～9歳の年齢域の患者報告数の割合は、過去10年では44～59%の範囲になっています。今シーズンは例年と同様に約45%となっています。

入院患者サーベイランスでは、604人(24.16人/定点)の報告がありました。年齢階級別で見ると0～14歳が161人(27%)、15～59

歳が62人(10%)、60歳以上が381人(63%)でした。昨年在0～14歳289人(48%)、15～59歳91人(15%)、60歳以上223人(37%)であったのに比して、今年は0～14歳の割合が少なくなり、60歳以上の高齢者の割合が増加しています。週別の入院患者の報告数はインフルエンザ定点からの患者報告数のピークとは異なり、2週にピークを迎えました(図4)。

週	検体数	陽性数	インフルエンザウイルス			
			AH1pdm09	AH1	AH3	B
36週(9/1-7)	14	1	0	0	1	0
37週(9/8-14)	15	1	0	0	1	0
38週(9/15-21)	12	0	0	0	0	0
39週(9/22-28)	10	0	0	0	0	0
40週(9/29-10/5)	16	0	0	0	0	0
41週(10/6-12)	21	0	0	0	0	0
42週(10/13-19)	14	1	0	0	1	0
43週(10/20-26)	14	1	0	0	1	0
44週(10/27-11/2)	11	1	0	0	1	0
45週(11/3-9)	17	0	0	0	0	0
46週(11/10-16)	24	5	0	0	5	0
47週(11/17-23)	22	5	0	0	5	0
48週(11/24-30)	16	4	0	0	4	0
49週(12/1-7)	31	18	0	0	18	0
50週(12/8-14)	28	17	0	0	16	1
51週(12/15-21)	35	20	0	0	18	2
52週(12/22-28)	27	21	0	0	21	0
1週(12/29-1/4)	0	0	0	0	0	0
2週(1/5-11)	46	36	0	0	33	3
3週(1/12-18)	17	9	0	0	9	0
4週(1/19-25)	43	27	0	0	25	2
5週(1/26-2/1)	35	20	0	0	18	2
6週(2/2-8)	26	17	0	0	12	5
7週(2/9-15)	22	12	0	0	12	0
8週(2/16-22)	25	16	0	0	11	5
9週(2/23-3/1)	20	9	1	0	6	2
10週(3/2-8)	14	4	0	0	1	3
11週(3/9-15)	23	8	0	0	4	4
12週(3/16-22)	12	7	1	0	4	2
13週(3/23-29)	18	7	0	0	2	5
14週(3/30-4/5)	15	8	0	0	3	5
15週(4/6-12)	15	9	0	0	1	8
16週(4/13-19)	17	6	0	0	1	5
17週(4/20-26)	17	7	0	0	1	6
18週(4/27-5/3)	12	7	0	0	1	6
19週(5/4-10)	2	0	0	0	0	0
20週(5/11-17)	15	1	0	0	0	1
合計	721	305	2	0	236	67

(2) ウイルス検出状況

定点医療機関等から当センターに搬入された検体721件についてウイルス検査を実施した結果、305件からインフルエンザウイルスが検出されました(図5、表1)。内訳は、AH1pdm09 2件、AH3亜型236件、B型67件でした。

また、学級閉鎖など定点医療機関以外から、当センターに搬入された検体38件についてウイルス検査を実施した結果、32件からインフルエンザウイルスが検出されました。検出されたウイルスは32件すべてAH3亜型でした(図6)。

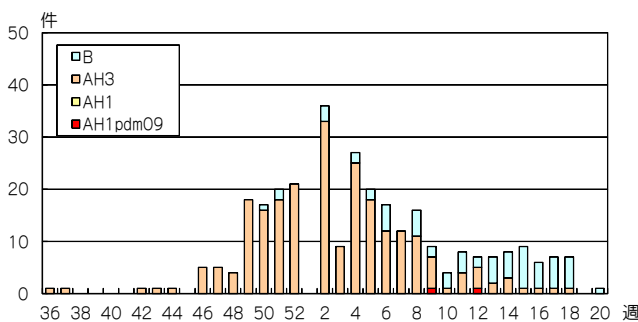


図5. インフルエンザウイルス検出数
(定点医療機関から搬入された検体)

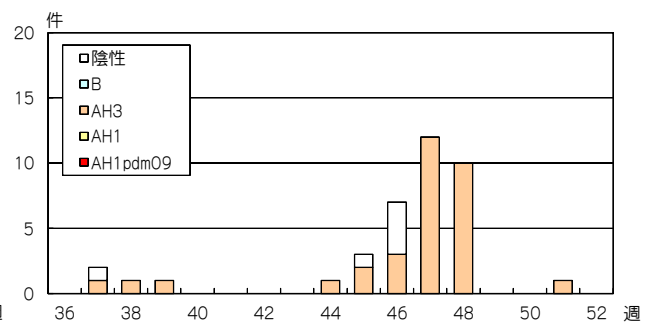


図6. インフルエンザウイルス検出数
(学級閉鎖など定点医療機関以外から搬入された検体)

(3) 2014/2015年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹(東京都)

今シーズンに検出されたインフルエンザウイルスについて遺伝子解析を行い、ワクチン株との比較をしました。

AH1pdm09のウイルスは昨シーズンと同様のウイルスであり、ワクチン株と比較しても大きな変異はみられませんでした(図7)。

AH3亜型の流行株は、2014/2015年シーズンのワクチン株と比較して変異の少ない流行

株①と②および、ワクチン株から少し離れた③の3系統のウイルスで、そのうちの③が主に流行しました(図8)。

B型流行株は、今シーズンはYamagata系統が主な流行株となりました。今シーズンの流行株は、2014/2015年シーズンワクチン株よりも、2012/2013年シーズンワクチン株に近いウイルスでした。また、昨シーズンの株と比べて変異が少なく、同様のウイルスが流行しました(図9)。

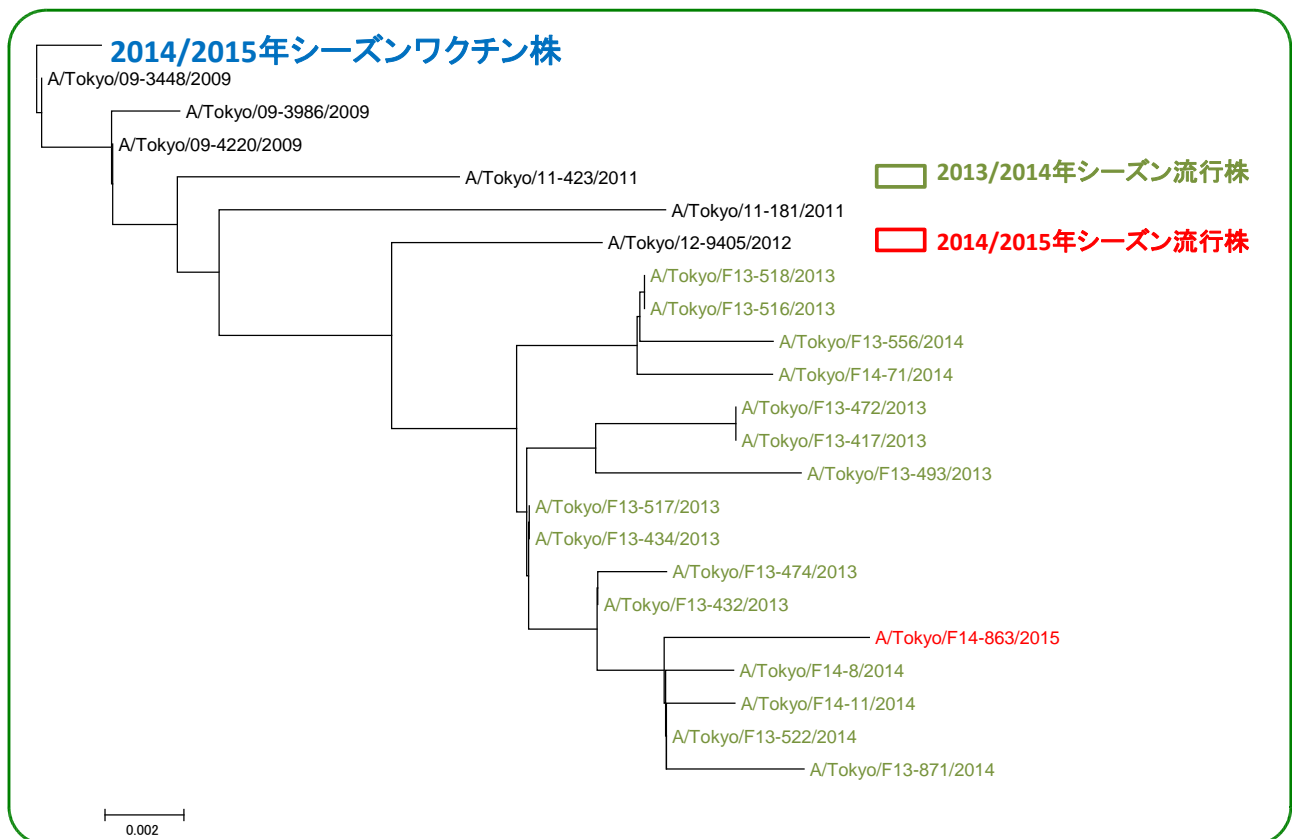


図7. 東京都におけるAH1pdm09インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

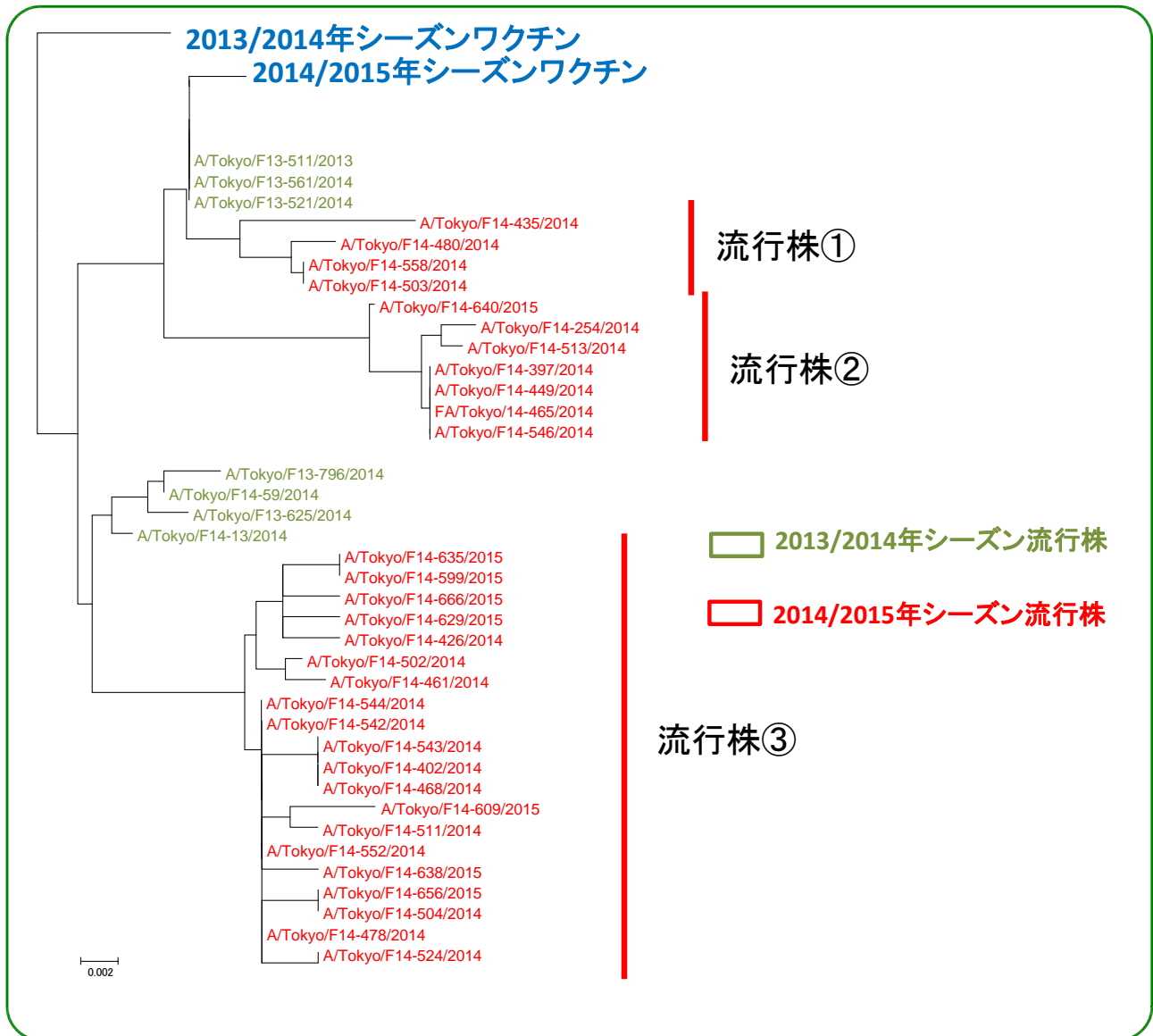


図8. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

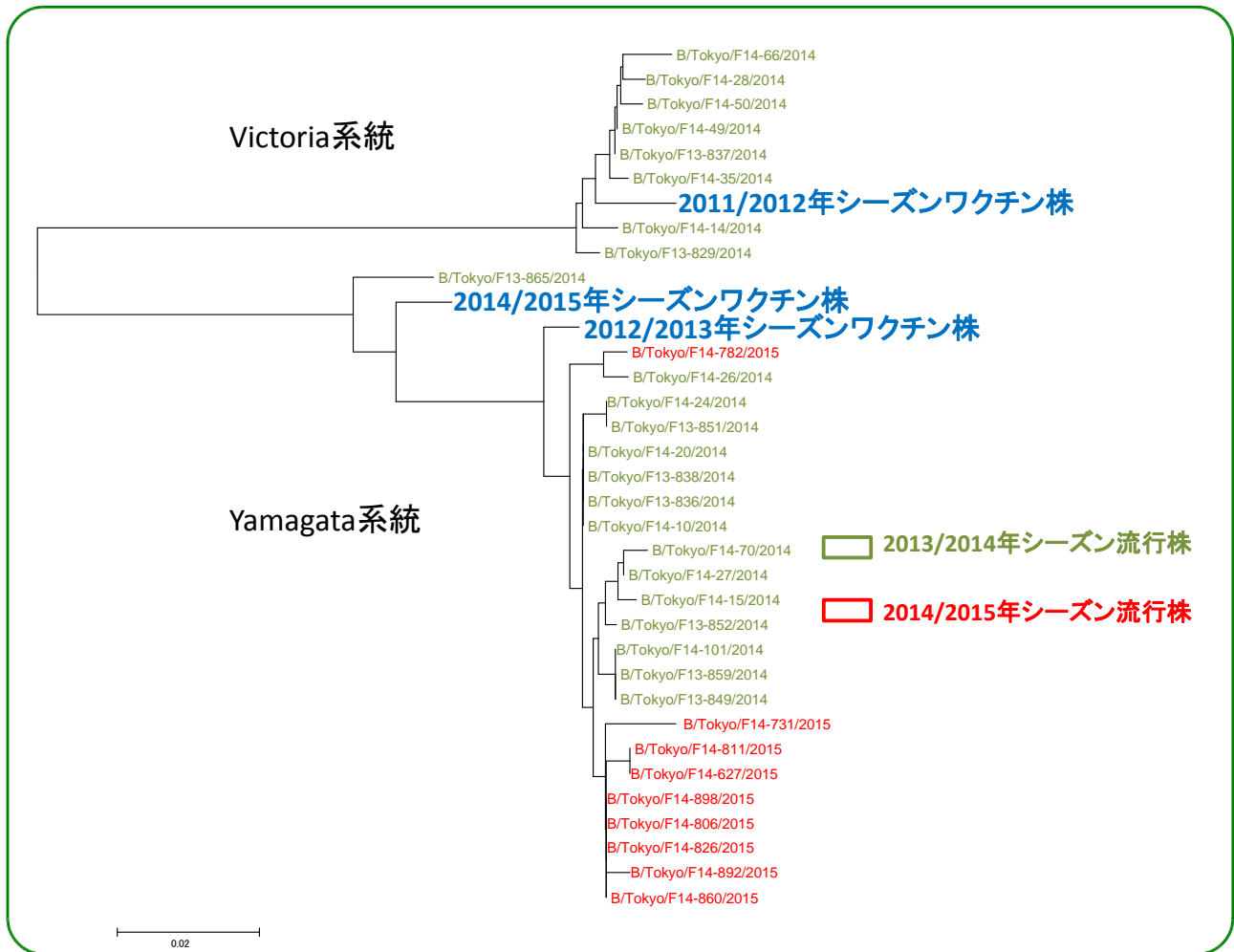


図9. 東京都におけるB型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

この号が2014-15年シーズンの最終号となります。

◆ 東京都インフルエンザ情報 ◆

編集・発行

東京都健康安全研究センター
企画調整部健康危機管理情報課
〒169-0073

東京都新宿区百人町3-24-1

TEL: 03-3363-3213

FAX: 03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/